

令和2年度 第3回学校評議員会 議事概要

1 日時 令和3年3月5日(金) 14時30分～17時00分

2 場所 東生会館2階 大ホール

3 出席者(敬称略)

学校評議員 3名

増田 泰之 同窓会会長(同窓会関係者)

柳谷 郁子 知識人・作家(学識経験者)

江口 益男 民間企業(企業関係者)

※瀧川 吉弘 地域代表・自治会長(自治会等関係者)・石田 和也 保護者代表・PTA 役員(保護者)・

村上 忠幸 大学教授(学識経験者) は欠席

校内委員メンバー 10名

白井 研二(校長)、山田 潔(特任専門官・SSH 担当)、藤原 勝博(教頭)、松井 康文(事務長)、

西谷(総務部長代理)、川勝(SSH 推進部長)、有馬(生徒指導部長)、勝木(1年次主任)、

小谷(2年次主任)、岩井(3年次主任)

4 内容

(1) 校長挨拶

ご都合が悪く、出席している委員の方が少ないが、内容の濃い議論をお願いしたい。

(2) 学校からの現況報告

SSH 事業について

ICT 環境の整備・充実について

多様な価値観に触れ、視野を広げる講演会

その他(研修、修学旅行、ほか)

上野千鶴子氏講演会について

山口源兵衛氏講演会について

玄田有史氏講演会について

SSH 通信、生活創造部の活動紹介

学校評価シートについての説明

学校紹介ビデオの紹介

(3) 意見交換・質疑応答

【委員】科学部受賞の分母を知りたい

【教員】学会やコンテストによって違うが、分母が大きいから値打ちがあるというわけではない。

科学部は、各大学が実施している大会ではなく、文部科学省認定大会に絞って応募している。これにはハイレベルの研究しか応募しないので、これで全国上位入賞することは甲子園出場に相当する。

【委員】中学生を対象にしたビデオに感心した。他校のものも見てみたい。

【校長】公開されている。

- 【委員】ビデオに感心した。教員が作ったものとしても素晴らしい。
- 【委員】店のにぎわいの差は従業員のユーチューブであったりする。活用しては？
- 【委員】シドニー大学野外調査の対象者は誰か。
- 【教員】2年次生の希望者である。
- 【校長】本校は全員で課題研究を実施している。費用はSSHからと一部生徒負担である。
- 【委員】オーストラリア語学研修は実施するのか。
- 【教員】一人当たりの必要額40万円のうち6万円の補助金を受けて、時期を後ろにずらして実施の予定である。
- 【委員】行きたいと思ってもお金がなければ行けないということか。優れた生徒だけを選んで、というのも難しいと思う。
- 【校長】教員の費用は東生会で負担してもらっている。SSH指定のおかげか、積極的に参加する生徒が増えてきている。
- 【委員】東生会でもスタディールームの改修工事を補助させてもらっている。活用してほしい。
- 【校長】現在でもICT設備を良く使っているので、今後も活用を期待している。
- 【教員】英語ではパワーポイントを投影したり、板書を投影したりしている。
- 【校長】家庭科では2つの教室に分かれて同時展開するのに活用している。
(高校推薦入試状況の報告)
中学生は姫路市内の普通科を希望する傾向が強い。
- 【教頭】(家庭科の授業の様子を紹介)
- 【委員】家庭科は男女とも実施か。
- 【校長】そうだ。本年度からようやく男女混合名簿になった。
- 【教員】3年次生の進路について、例年より全国に散りにくい傾向がある。共通テストは上位層はよく取れたが、中下位層は苦戦した。進路指導もリモートを活用している。
- 【委員】男子クラス、女子クラスというのはあるのか。
- 【教員】すべて男女混合クラスである。
- 【校長】体育の授業も男女混合である。2月に開催予定のGirl's Expo with Science Ethicsでも女子生徒保護者を対象にした説明会を計画している。
- 【委員】科学部の研究テーマをもっと中学生ウケするものにしてはどうか。
- 【教員】ゴキブリやクモは中学生に人気である。そもそも生徒自身がテーマとして選んでいる。ウケを狙って教員が指示するものではない。複数のテーマで同時に研究している生徒が多い。
- 【校長】すべての学校活動に探究を導入している。ZOOMは大切だが経験の少ない生徒にとっては実体験も重要。うまくやっていると思う。
- 【教員】(チャレンジ研修について説明)年次そろっての初めての行事となった。
- 【教員】校歌を歌わない卒業式だったが厳かであった。次年度に生かしたい。

次年度に向けて

【委員】：今以上にオンラインを活用した効果的な授業を実施してほしい。

スタディールームを活用してほしい。

【委員】：オンライン授業の生徒の反応はどうか。

【教員】：自ら積極的に参加しようとしなければ効果が上がらない。各家庭のネット環境の違いが課題である。配信しっぱなしにはならなかったが、教員の側の慣れが必要だった。理想は対面授業である。

【委員】：東京オリンピックを機に、通訳を希望する生徒はいるのか。

【教員】：東京オリンピックが決まった頃にはいたが、今はいない。海外に出たいという生徒もいなくなった。

【委員】：アフターコロナで残すものと変えるものを検討してほしい。

【委員】：教員の自己評価は謙虚ではないか。

【教頭】：4点満点での評価である。

【校長】：ここ10年ですべき課題が増えており、することを選択しなければならなくなっている。働き方改革の一方で保護者からの要求も高まっている。何でも学校が抱えるのではなく、学校は選択肢を提供し、生徒自身に選択してもらう時代である。

【委員】：なぜ学校評価は4段階なのか。

【校長】：4択にしないと、3が増えてしまって評価が分からない。今年度は質問項目を精選した。来年度からは、同じ質問を保護者にも出して検討したい。コロナ禍の中、よくやったと評価している。

SSH関連で進学する生徒にも（神戸大学以上などと限らずに）スーパーKのような支援をお願いしたい。

【委員】：同感であり、伝えておく。

(4) 諸連絡（事務長）

トイレ工事、体育館照明工事、エアコン設置、ICT設備の充実、スタディールームの改修工事

(5) 閉会挨拶（特任専門官）

来年度の取り組みに生かしていきたい。コロナ禍の経験を生かして工夫していきたい。